



発行 自衛隊札幌病院
豊友会事務局 第71号
令和5年1月



「挑 戦」

自衛隊札幌病院長

陸将 鈴木 智史

明けましておめでとうございます。未だウイズコロナの状況ではありますが、皆様におかれましては穏やかな新年を迎えられていることと思います。

特に豊友会の皆様には常日頃から、自衛隊札幌病院に対して、多大なご支援とご協力を賜り、改めて感謝を申し上げます。昨年、病院診療においては地域の医療機関として病診・病病連携を図り、質の高い医療を提供すると

ともに、けが・災害、消化器2次、精神科の救急輪番に加え、コロナ陽性患者の受入やコロナ輪番を担当しました。また、引き続き自衛隊大阪大規模接種会場の問診（オンラインを含む）等を担当するとともに、方面隊区内隊員に対して新型コロナワクチン職域接種を実施しました。事態対処訓練としては、「04北部方面隊総合戦闘力演習」や「YS-83」、「レゾリュート・ドラゴン（RD）22 日米共同訓練」の機会を活用し、ダメージコントロール手術（DCS）、重症患者後送・受入、衛生調整所業務等の訓練を実施しました。RD22は、第2後方支援連隊衛生隊に当院DCSチームが加わり、米海兵隊医療部隊隊員との混成チームで師団収容所（Role2）の運営訓練を実施しました。また札幌直下地震を想定した災害対処訓練では、発災直後の対処に加え、病院駐車場にUH-1を離発着させ、患者受入・後送訓練を行うとともに、当院病棟内に医療搬送拠点（札幌南SCU）を開設・運営した4チームの北海道DMATとの連携訓練も併せて実施しました。昨年は、このような数多くの新たな取り組みに「挑戦」をし、各種事態対処時に札幌病院が実施すべき任務を網羅的に訓練ができました。振り返ると、職員一人一人が「進歩」と「誇り」を感じられる充実した1年であったと思います。

現下の我が国周辺の安全保障環境は戦後最も厳しい状況です。国民の安全・安心のために、自衛隊札幌病院が更に高いレベルで任務達成できるよう「挑戦」を続け、全職員が一丸となって職務に邁進していきたいと思っております。豊友会の皆様、隊員及び家族の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。



「豊友会長の挨拶」

自衛隊札幌病院豊友会

会長 鳥越 俊彦



創立記念日（豊友会長祝辞）

新年明けましておめでとうございます。

昨年末、3年ぶりに米国に出張しました。新型コロナウイルスパンデミックの影はほとんど消えており、社会はコロナ前の状態に復帰していました。日本では感染症法2類相当のまま厳格な規制と医療体制が維持されていますが、そのおかげで新型コロナによる死者数は10万人当たり41人と、米国の約1/8に留まっています。日本人の免疫力が新型コロナに対して強いという説もありますが、それよりも国民皆保険制度による医療基盤の充実とマスク着用を厭わない衛生的な国民性によるところが大きいのではないかと感じます。パンデミックの3年間で社会は大きく変化しました。学術集会においては会議やWEBセミナーが当たり前となり、移動する時間・労力・経費を大幅に削減できるようになりました。その反面、対面でしか伝わらない言葉のニュアンスや感情表現によるコミュニケーションが不足しがちとなり、人と人の心の距離までも遠ざかってしまったように感じます。2023年はポストコロナ元年となります。パンデミックによって失われたものを取り戻しつつ、New Normalを受け入れて、新しい時代を築こうではありませんか。豊友会においても、従来の枠を越えた新しい活動に取り組んでみたいと思っております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

年頭のご挨拶

総務部長



1等陸佐 田中 一 要

新年あけましておめでとうございます。本年も変わらぬご支援をお願いします。

新年あけましておめでとうございます。豊友会員の皆様には平素よりご協力いただき誠にありがとうございます。令和5年の干支は癸卯であり、兎年は努力が花開き実り始める縁起の良い年と言われています。コロナとの共存から各種活動が活発化している状況に正に相応しい年と言えます。総務部としては「信頼される病院の創造」に寄与することに加え、更に「飛躍」「向上」できるよう基盤をしっかりと支えていく所存です。

外科部長

兼 前任診療科部長



1等陸佐 野元 希 蝶

昨年同様ご指導宜しくお願いいたします。

新年あけましておめでとうございます。去年「今年には日常回帰」と申しましたが、コロナは予想以上にしぶとく、一進一退の昨年となりました。それでも札幌病院は通常診療のみならず健康管理・訓練支援等、北方衛生の支えとなるべく努力しております。

看護部長



1等陸佐 岩澤 慶 子

指導・ご助言の程宜しくお願い致します。

謹んで初春のお慶びを申し上げます。昨年は、札幌病院の組織理念に立ち返り、様々なことに挑戦し、組織人としての深化・内面の進化に取り組んで参りました。今年はその深化・進化した職員共々卵歳エネルギーの波に乗り、更に組織力を発揮し、陸自衛生・地域に貢献できるよう邁進して参ります。

最先任上級曹長



准陸尉 松田 祐 介

変わらぬご支援をお願いします。

新年あけましておめでとうございます。平素より豊友会の皆様の多大なご支援の下、相変わらず新型コロナウイルス感染症流行の渦中に教育訓練・業務に一段高い意識を持って臨み続けられています。職員の成長・組織の発展に繋がっているものと確信し感謝申し上げます。本年も職員個々が充実感を一層実感できるような職務に精励いたしますとともに、皆様からの信頼と更なる期待に応えるべく任務に邁進いたします。

副院長兼企画室長



陸将補 小原 聖 勇

隊中央病院より吉家1尉が上番し企画室の面々もフレッシュな顔ぶれとなり、益々、頑張りたく思っています。以上を報告し、年始のご挨拶とさせていただきます。

新年あけましておめでとうございます。皆様方、それぞれ穏やかな新年をお迎えのことと存じ上げますが、一昨年から引き続き、昨年も新型コロナウイルス対策を講じながらの勤務となりました。病院職員一部は主に家庭のコロナ感染症のため、またそれを疑う状況のため、職務につくことができず、不稼働状況となりましたが、なんとか、通常業務、訓練、教育、衛生支援をほぼ計画通り実施することができました。職員の方々の応援に改めて頭が下がる思いです。ありがとうございます。

衛生資材部長



2等陸佐 菊地 道 人

ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。いまだにコロナウイルス感染症の脅威が続く中、豊友会の皆様には平素より大変お世話になっております。多種多様な医薬品等が需給不安定に陥るという状況が続く中、診療の途絶防止を含め衛生資材部全員が一丸と総力を尽くして具現できるように業務に邁進してまいります。

診療技術部長

兼 救急科部長 兼 脳神経外科部長



1等陸佐 長川 真 治

ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。昨年は、春に導入されたCT車の主担当として、放射線技術課が他部署とも連携してその戦力化に当たりました。院内だけでなく院外の部隊等所属の放射線技師に対しては集合教育等の機会を利用して教育訓練を実施しました結果、今後方面隊内各地での任務が果たせるのではないかと考えております。研究検査課と連携もそれぞれの正面で任務遂行に参ります。

内科部長



1等陸佐 田 嶋 修

ご協力をお願いします。

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年は新型コロナウイルス感染症のアウトブレイクへの対応として、発熱外来コロナ病棟の運営、大阪大規模接種支援への要員派遣、職域接種など自衛隊札幌病院の内科部門はその一翼を担ってまいりました。今後も職域病院としてのみならず公的病院の内科部門として責任を果たしてまいります。

歯科部長

兼 准看護学院長



1等陸佐 野 浩

ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

新年明けましておめでとうございます。未だコロナ禍にあり、准看護学院においても教育訓練や学生生活に様々な制約を余儀なくされておられますが、職員一同、引き続き愛情と情熱を持って学生教育にあたる所存です。本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

《行事紹介》

第47期初級陸曹特技課程「准看護師」戴帽式

令和4年9月30日(金)自衛隊札幌病院准看護学院(学院長 野澤1佐)は、北部方面総監部から医務官、人事部人事課長、防衛部訓練課長、最先任上級曹長の臨席のもと、第47期准看護師課程の戴帽式を挙行了た。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染予防に十分配慮し、厳粛な雰囲気の中執り行われた。戴帽の儀において純白の看護衣に身を包んだ25名(男性11名、女性14名)は、教務班長(米川3佐)からナーズキャップを戴いた。学生長(細田士長)指揮の下、衛生科精神を唱和し、「医療従事者として過酷で困難な状況においても、人道に基づく愛情をもって、骨肉の至情と挺身奉仕の精神に徹し、勇敢かつ沉着冷静に任務に邁進する。」と誓いを立てた。

病院長(鈴木陸将)は、「これから臨地実習が始まる。今まで学院で学んだ全てを統合し看護を行うに必要な知識、技術、態度を習得する大切な期間です。医療・看護は、かけがえのない命を守るためのものであり、安全・確実でなければならない。患者さんの思いを理解し、苦痛を少しでも軽減できるように、食欲に知識・技術を高めていくと同時に、愛情に満ちた豊かな人間性やコミュニケーション能力も高めなければならない。患者さんの思いやる気持ちを持ち、身体と心を癒せる看護師となるために日々何をすべきかを考え、『ベストを尽くす』ために、積極的に学ぶ努力を積み重ね続けていくことが大切です。相手の気持ちを『思いやり』如何なる状況・環境においても「『大切な仲間』を救う役割を胸に秘め、職務に対する尊き使命感のもと、心身を磨き技術を身に付け、人間力の強化に努めてもらいたい。」と訓示した。

学生は、医療従事者としての使命及び責任の重さを改めて自覚し、真に役立つ准看護師たる自衛官を目指すことを誓った。



戴帽の儀(女性自衛官)



衛生科精神唱和



札幌病院長(鈴木陸将)訓示

令和4年度災害対処訓練

令和4年12月3日(土)自衛隊札幌病院(病院長:鈴木陸将)は、道央地域(札幌地区)における大規模地震(直下型地震)を想定し令和4年度災害対処訓練を実施した。統裁官(病院長)は訓練の開始に当たり、「院内・外の連携要領の確立」及び「管理安全・感染管理意識の徹底」の2点を要望し、「各種初動対処要領及び各種計画の実効性について検証し、事態発生時における即応性を含めた能力の向上を図り地域に貢献できるよう、有意義な訓練を実施することを期待する。」と訓示した。前段訓練は7時30分に札幌直下型地震発生の状況付与から開始され第3種非常勤務態勢に移行、部隊当直司令が電話による非常呼集を開始し病院職員は登庁後、速やかに指揮所を開設、職員の被害状況の把握及び被災者等の受入れを第一義とした所要の準備を実施した。その後、初動部隊(自衛隊札幌病院救護班)が北部方面衛生隊と連携して支援態勢を整えた。後段訓練では災害翌日の場面を想定し、病院への大量傷者受入れ要領について演練し、札幌市災害時基幹病院としての役割を再確認した。併せて、北海道DMATにより院内に札幌南SCU(広域医療搬送拠点)を開設して災害地域への患者後送拠点を提供し、地域医療への貢献要領について一案を案出した。

また、北部方面総監(沖邑陸将)の訓練視察を受け、病院の今後の課題等についてご指導を賜った。本訓練において事業継続計画の実効性向上、初動態勢の早期確立及び関係機関との連携の重要性を再認識し訓練を終了した。



大量傷者の受入



北部方面総監視察



機能別訓練(ヘリ患者搬送)

《行事紹介》

第47期初級陸曹特技課程「准看護師」戴帽式

令和4年9月30日(金)自衛隊札幌病院准看護学院(学院長 野澤1佐)は、北部方面総監部から医務官、人事部人事課長、防衛部訓練課長、最先任上級曹長の臨席のもと、第47期准看護師課程の戴帽式を挙行了。今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、感染予防に十分配慮し、厳粛な雰囲気の中執り行われた。戴帽の儀において純白の看護衣に身を包んだ25名(男性11名、女性14名)は、教務班長(米川3佐)からナースキャップを戴いた。学生長(細田士長)指揮の下、衛生科精神を唱和し、「医療従事者として過酷で困難な状況においても、人道に基づく愛情をもって、骨肉の至情と挺身奉仕の精神に徹し、勇敢かつ沈着冷静に任務に邁進する。」と誓いを立てた。

病院長(鈴木陸将)は、「これから臨地実習が始まる。今まで学院で学んだ全てを統合し看護を行うに必要な知識、技術、態度を習得する大切な期間です。医療・看護は、かけがえのない命を守るためのものであり、安全・確実でなければならない。患者さんの思いを理解し、苦痛を少しでも軽減できるように、貪欲に知識・技術を高めていくと同時に、愛情に満ちた豊かな人間性やコミュニケーション能力も高めなければならない。患者さんの思いやる気持ちを持ち、身体と心を癒せる看護者となるために日々何をすべきかを考え、『ベストを尽くす』ために、積極的に学ぶ努力を積み重ね続けていくことが大切です。相手の気持ちを『思いやり』如何なる状況・環境においても「『大切な仲間』を救う役割を胸に秘め、職務に対する尊き使命感のもと、心身を磨き技術を身に着け、人間力の強化に努めてもらいたい。」と訓示した。

学生は、医療従事者としての使命及び責任の重さを改めて自覚し、真に役立つ准看護師たる自衛官を目指すことを誓った。



戴帽の儀(女性自衛官)



衛生科精神唱和



札幌病院長(鈴木陸将)訓示

令和4年度災害対処訓練

令和4年12月3日(土)自衛隊札幌病院(病院長:鈴木陸将)は、道央地域(札幌地区)における大規模地震(直下型地震)を想定し令和4年度災害対処訓練を実施した。統裁官(病院長)は訓練の開始に当たり、「院内・外の連携要領の確立」及び「管理安全・感染管理意識の徹底」の2点を要望し、「各種初動対処要領及び各種計画の実効性について検証し、事態発生時における即応性を含めた能力の向上を図り地域に貢献できるよう、有意義な訓練を実施することを期待する。」と訓示した。前段訓練は7時30分に札幌直下型地震発生状況付与から開始され第3種非常勤務態勢に移行、部隊当直司令が電話による非常呼集を開始し病院職員は登庁後、速やかに指揮所を開設、職員の被害状況の把握及び被災者等の受入れを第一義とした所要の準備を実施した。その後、初動部隊(自衛隊札幌病院救護班)が北部方面衛生隊と連携して支援態勢を整えた。後段訓練では災害翌日の場面を想定し、病院への大量傷者受入れ要領について演練し、札幌市災害時基幹病院としての役割を再確認した。併せて、北海道DMATにより院内に札幌南SCU(広域医療搬送拠点)を開設して災害地域への患者後送拠点を提供し、地域医療への貢献要領について一案を案出した。

また、北部方面総監(沖邑陸将)の訓練視察を受け、病院の今後の課題等についてご指導を賜った。本訓練において事業継続計画の実効性向上、初動態勢の早期確立及び関係機関との連携の重要性を再認識し訓練を終了した。



大量傷者の受入



北部方面総監視察



機能別訓練(へり患者搬送)

令和 4 年 自衛隊札幌病院年表

1 月 「新たな挑戦」

- 5 日 病院朝礼
- 26 日 ① 第 65 回北部防衛衛生学会



① 第 65 回北部防衛衛生学会 (講師 折茂氏)

2 月 「感染予防施策の確実な実施」

- 5 日 C T 診断車泊車
- 21 日 ② だるまの目入れ式



② だるまの目入れ式 (だるまを囲む看護部)

3 月 「新年度への周到な準備」

- 1 日 新型コロナウイルスワクチン
職域接種 (3 回目追加接種)
- 14 日 最先任上級曹長交代式
- 23 日 准看護学院長着任式



③ 北京オリンピック選手来院

4 月 「計画的な業務遂行」

- 1 日 第 47 期准看護師学生入校式
- 8 日 精神教育 (病院長)
- 18 日 ③ 北京オリンピック選手来院
- 22 日 第 1 回即応態勢点検



④ 叙勲伝達式

5 月 「感謝と献身」

- 13 日 消防訓練
- 16 日 患者後送訓練 (准看)
- 31 日 ④ 叙勲伝達式
情報管理検査



⑤ 第 67 回病院創立記念行事

6 月 「体力錬成と健康管理」

- 11 日 ⑤ 第 67 回病院創立記念行事
- 17 日 医療情報システム停止訓練
- 18 日 ⑥ 新生児蘇生講習
(NCPR Aコース)
- 25 日 第 1 回心突然死対策講習
(ICLS)



⑥ 新生児蘇生講習 (NCPR Aコース)

7 月 「実力の涵養」

- 8 日 羊蹄山山地行進訓練 (准看)
- 15 日 特別講演
「病院勤務員としての人間力強化」
- 16 日 新生児蘇生講習
(NCPR Sコース)



⑦ 緊急患者後送・受入訓練

8 月 「組織力の結集」「即応性の維持」

- 3 日 駐屯地花火大会
- 4 日 第 2 回即応態勢点検
- 22 日 04 北演札幌病院訓練開始式
- 28 日 ⑦ 緊急患者後送・受入訓練
陸幕衛生部企画室長視察



⑧ 防災避難訓練 (図上演習)

9 月 「知力と体力の向上」

- 12 日 ⑧ 防災避難訓練
- 16 日 精神教育 (総務部長)
- 23 日 ⑨ 第 2 回心突然死対策講習
(ICLS)
- 30 日 ⑩ 第 47 期准看護師学生戴帽式



⑨ 第 2 回心突然死対策講習 (ICLS)



⑩ 第 47 期准看護師学生戴帽式

10 月 「気力の充実」

- 6 日 持続走競技会 (准看)
- 10 日 陸幕衛生部長視察



⑪ HTB ドラマ撮影協力

11 月 「連携の強化」

- 1 日 永年勤続者表彰
- 8 日 精神教育 (副院長)
- 23 日 ⑪ HTB ドラマ撮影協力



⑫ 災害対処訓練 (DMATとの協同訓練)

12 月 「振り返りと改善」

- 3 日 ⑫ 災害対処訓練
- 13 日 病院クリスマスコンサート

豊友会事務局便り

事務局長 三井康熙

1 事務局長挨拶

あけましておめでとうございます。

新型コロナウイルスの感染状況は、一時は小康状態になるかと思われましたが昨年後半から増加傾向高止まりの状況になっています。外国からの観光客も増えて街中では久しく耳にしなかった外国語が聞かれるようになりました。集って交友を深める場を設けられない状況下ですが引き続き感染対策を続け感染拡大防止に努めたいものです。

今回メールアドレスを登録されている会員様に年頭のご挨拶を配信させて頂きました。メールアドレスを通知されている方でメールを受信できていない方は、事務局での誤登録の可能性がりますので再度、事務局あてにメールを送っていただきたくお願い申し上げます。会員皆様並びにご家族様にとりまして今年が良い年となりますよう祈念申し上げるとともに今後ともご指導・ご協力よろしくお願いいたします。

2 活動状況

(1) 事務局会議

毎月1回、第2木曜日1900からを基準に事務局（自衛隊札幌病院）において各種調整、会誌の準備・発送、役員会の準備等を実施しております。

(2) 豊友誌の発行：年2回発行

(3) 慶弔等

ア 慶事（受章者6名）

令和4年春の叙勲：瑞宝双光章：島津誠吾様、瑞宝単光章：川崎園美様

令和4年秋の叙勲 瑞宝双光章：中村正一様、松本明男様、吉田也志守様、瑞宝単光章：松岡裕次様
記念品を作成し贈呈しました。（おめでとうございます。）

イ 御長寿記念品贈呈

傘寿1名を予定（3月）

ウ 弔事

小林 秀紀 様（73歳）令和4年11月 7日逝去

大塚 清 様（88歳）令和4年11月20日逝去

会則に基づき香典、供物を贈りお供えいただきました。ご冥福をお祈りいたします。

(4) 令和5年度役員会の予定

時期：令和5年4月上旬頃

場所：自衛隊札幌病院

3 新入会員（令和4年9月から現時点まで）

伊藤 弘人 様（元最先任上級曹長）

4 連絡事項

(1) メール連絡網について

メールによる連絡網に加入いただける方は、こちらのアドレス「greenrigger3712@yahoo.co.jp」にお名前を記してメールを送信していただきますようお願いいたします。

(2) 豊友会誌への記事投稿についてお願い

豊友会誌への掲載記事を募集しています。A4用紙1枚程度で趣味のお話、経験談、職場の紹介、会員間交流、回顧録等、ジャンルは問いません。情報発信の場として活用していただければと存じます。ふるって御投稿下さい。

投稿記事は、下記にお送りください。会員皆様からの記事の投稿をお待ちしております。

☆投稿方法：事務局員又は自衛隊札幌病院の下記メールアドレスへ送信又は郵送でも可能です。

○札幌市南区真駒内17 自衛隊札幌病院企画室 : 「saporohosp-na@inet.gsdf.mod.go.jp」

○札幌市豊平区豊平8条11丁目1-1-902 事務局長 三井康熙 : 「mytsh832locb@gmail.com」

○事務局「会誌、メール担当」: 「greerigger3712@yahoo.co.jp」

(3) 会費の納入について

新型コロナの流行以降、懇親会等の開催ができず、会場での会費の受付が出来ない状況です。年会費は、口座振込での納入をお願いします。納入口座は郵貯銀行総合口座、口座名「自衛隊札幌病院豊友会」です。年会費：2,000円 振込手数は各自負担をお願いします。

・郵貯銀行からの振込の場合

記号19090 口座番号21181151

・他の金融機関からの振込の場合

店番908 口座番号2118115